

猪苗代湖内部構造把握に向けた現地観測調査， および検討

川越清樹・柴崎直明・長橋良隆・横尾善之・藪崎志穂

既にプロジェクトとともに，裏磐梯地域や猪苗代湖内外で水文の，かつ地質的アプローチによる調査解析が進められている．この調査，検討過程の中で「猪苗代湖湖底地質状況，および底質による古環境推定」，「猪苗代湖の影響による微気候変化の影響」，「猪苗代湖の存在による周辺の地下水への影響」等の各々の結果，および仮説が求められたが，現在までの調査解析の流末側に位置する猪苗代湖を中核として，周辺の水・物質循環の全体像を明らかにできる可能性も指摘されている．以上を背景に湖内環境を分野の近い研究室が共同で調査に取り組み，共通認識の下で統合的な解析に資することのできる調査を実施する．具体的な調査案は，①湖内水温計測，および分析，②採水，および水質分析，③河口デルタを基点とした地形，底質サンプリング，および分析である．



写真 1 猪苗代湖現地調査状況

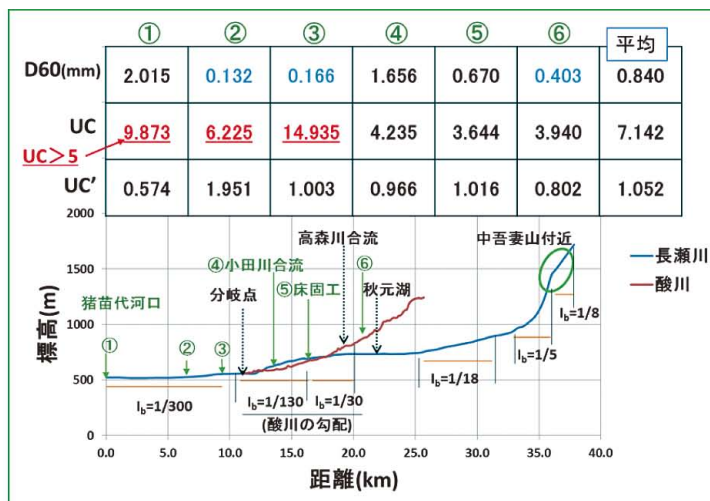


図 1 長瀬川河口からの土砂粒径分布

調査として先に示した調査案①から③を進め，デルタ周辺の採砂分析に関しては概ね粒径を把握し，デルタから河川距離に応じた粒径の理論値の定式化を求めることができた．その一方で，合同調査の要所である猪苗代湖に対する①，②の調査案を合同で実施した（2014年10月4,5日）が，当日は台風前の時化た天候となり，湖内の鉛直方向の水温，水質に関わる解析に十分なデータを取得できなかった．ただし，この実測を経験して，湖内観測におけるデータ取得において必要になる計器観測手法の計画を協議することができている．裏磐梯地域において猪苗代湖の水文量データ取得は水循環を解明するために重点課題であり，データ取得は必須項目である．そのため，悪天候でも安定的に計測できる計器観測手法を確立し，現地調査を実施してデータ取得を試みる意向である．